

アンケートの実施結果について

1-1. 利用者アンケート

計画の改定にあたり、検討対象施設のうち、不特定の市民が利用する施設でアンケート設置が可能な施設について、実際の利用者に対し、利用目的、利用実態等について回答いただくアンケート調査を実施しました。

利用者アンケート概要

実施対象	公共施設の利用者
実施時期	2023年5月18日～6月7日
実施方法	無記名回答方式
配布回収	調査対象施設(受付)にてアンケート調査票配布及び回収を行う
調査内容	1.利用者属性 2.利用状況 3.交通手段 4.利用した理由

利用者アンケート実施状況

No.	名称	施設機能	分類	回答数
1	上高津貝塚ふるさと歴史の広場	考古資料館	文化施設	52
2	一中地区公民館	学習、集会、会議等	生涯学習施設	263
3	二中地区公民館	学習、集会、会議等		130
4	上大津公民館	学習、集会、会議等		80
5	都和公民館	学習、集会、会議等		224
6	新治地区公民館	学習、集会、会議等		6
7	新治総合福祉センター	温浴施設		福祉施設
8	ふれあいセンター「ながみね」	温浴施設	54	
9	都和児童館	児童館	児童館等	98
10	ポプラ児童館	児童館		79
11	新治児童館	児童館		26
12	子育て交流サロン「わらべ」	子育て相談		18
13	子育て交流サロン「のぞみ」	子育て相談		23
14	都和支所	支所	庁舎等	208
15	南支所	支所		22
16	新治支所	支所		40
合計				1,555

1-2. 対象施設のアンケート結果

分類 (実施施設)	アンケート結果
文化施設 ・上高津貝塚ふるさと歴史の広場	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は70代が約半数を占めており、市外からの利用が約7割となっています。 ・ほかに利用する公共施設が「ある」と回答した人は概ね50%~70%となっています。 ・利用目的・内容はその他が約半数を占めており、うちクラブ活動が最も多くなっています。 ・利用頻度は2週間に1回程度と月に1回程度がそれぞれ約30%となっています。 ・利用した理由は「参加したい行事がある」が最も高く40%以上、次いで「立地場所が良い(家から近い等)」、「使いたい部屋・設備がある」が同率で約30%となっています。 ・交通手段は80%以上が自家用車となっています。
生涯学習施設 ・一中地区公民館 ・二中地区公民館 ・上大津公民館 ・都和公民館 ・新治地区公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は60代以上の割合が80%以上となっており、公民館がある地区の利用が最も多くなっていますが、施設が立地している地区以外からの利用も50~60%と多くなっています。 ・ほかに利用する公共施設が「ある」と回答した人は概ね50%~70%となっています。 ・利用目的・内容は趣味・サークルが最も多くなっており、概ね60~80%を占めています。運動・体操・ダンス、学習・講座の利用はどの施設でも一定数見られます。 ・利用頻度は概ね週に1回程度の利用が最も多くなっています。 ・利用した理由は概ね共通して「立地場所が良い(家から近い等)」、「受講したい講座がある」がそれぞれ20~50%を占めています。 ・交通手段は自家用車が60%以上となっています。
福祉施設 ・新治総合福祉センター ・ふれあいセンター「ながみね」	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は60代以上の割合が、新治総合福祉センターは95%以上、ふれあいセンター「ながみね」は65%程度となっています。両施設ともに、施設が立地している地区以外からの利用者が過半数を占めています。 ・ほかに利用する公共施設の有無について、「ない」と回答した人の割合の方が高くなっており、特にふれあいセンター「ながみね」は70%以上を占めています。 ・利用目的・内容は入浴・浴室が50~60%と最も高く、次いで、趣味・レクリエーションやトレーニング・フィットネス等がそれぞれ約30%となっています。 ・利用頻度は週に1回以上の利用が70~90%と最も高くなっています。 ・利用した理由は「無料で利用できる」「料金が安い」が60~80%を占めています。 ・交通手段は自家用車が80%以上となっています。
児童館等 ・都和児童館 ・ポプラ児童館 ・新治児童館 ・子育て交流サロン「わらべ」 ・子育て交流サロン「のぞみ」	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は児童館では10代未満及び30代、40代、子育て交流サロンでは20代や30代の割合が、それぞれ50~80%を占めています。 ・概ね施設が立地している地区からの利用が40~60%と最も多くなっていますが、新治児童館は二中地区、都和中地区からの利用がそれぞれ30%と多くなっています。 ・ほかに利用する公共施設の有無について、都和児童館とポプラ児童館は「ない」と回答した人の方がわずかに多くなっています。 ・利用目的・内容はいずれの施設も「遊びにきた」「工作教室」「子供の遊び場」等の遊びに係る選択肢が最も多く、50%以上を占めています。 ・利用頻度は児童館で週に1回程度の利用、子育て交流サロンで月に1回程度の利用がそれぞれ最も多くなっています。 ・利用した理由は概ね「立地場所が良い(家から近い等)」が最も多く40~70%を占めますが、新治児童館のみ「参加したい行事がある」が70%以上と最も多くなっています。 ・交通手段は自家用車が40~80%を占めますが、自転車が多い施設も見られます。
庁舎等 ・都和支所 ・南支所 ・新治支所	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は20代以上の多様な年代の利用が見られます。また、新治支所は他の支所よりも施設が立地している地区からの利用が多く、85.0%を占めています。 ・ほかに利用する公共施設の有無について、70~90%が「ない」と回答しています。 ・利用目的・内容はいずれの施設も住民票・印鑑証明書交付が最も多くなっています。 ・利用頻度はいずれの施設でも月に1回以下の利用が多く、80%以上を占めています。 ・利用した理由は「立地場所が良い(家から近い等)」が概ね80%以上となっており、ほか「対応可能な手続がある」「手続にかかる時間が短い」等の回答が見られます。 ・交通手段は自家用車が80%以上となっています。

2-1. 将来への世代アンケート

計画の改定にあたり、計画策定に係る施設の配置方針の検討に際し、地域の将来を担う世代の意向を把握するため、市の取組みの周知状況、公共施設を含めた利用の実態について回答いただくアンケート調査を実施しました。

将来世代アンケート概要

実施対象	年代・地区ごとに無作為に抽出された今年度 16 歳～25 歳になる市民 1,000 人
実施時期	2023 年 6 月 6 日～6 月 27 日
実施方法	無記名回答方式
配布回収	調査票を郵送し、郵送または WEB による回答
調査内容	1.回答者属性 2.市の公共施設再編への取り組み 3.利用したことがある、もしくは、利用してみたい施設 4.自宅・職場・学校以外での過ごし方等
回答状況	WEB による回答 119 件
	郵送による回答 44 件
	合計 163件(回答率 16.3%)

2-2. 対象施設のアンケート結果

調査内容	アンケート結果
回答者属性	<ul style="list-style-type: none"> ・居住区は、三中地区が最も多い 18.4%、次いで四中地区が 16.6%、五中地区が 15.3%となっています。 ・職業は、高校生が最も多い 35.6%、次いで大学生・専門学校生が 29.4%、会社員・公務員が 27.0%となっており、学生が 65.0%を占めています。 ・通勤・通学先は、土浦市内が 42.3%、次いで土浦市外(県内)が 28.2%、土浦市外(県外)が 27.6%、通勤・通学していないが 1.8%となっています。
市の公共施設再編への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・市の取り組みについては、「計画を策定したことは知らなかった。内容も聞いたことが無かった。」が最も多い 87.7%となっています。 ・「計画を策定したことは知らなかったが、内容は聞いたことがあった。」が 6.1%、計画が策定されたことを知っていた人は 6.2%となっています。
利用したことがあるもしくは利用してみたい施設	<ul style="list-style-type: none"> ・「利用したことがある公共施設がある」と回答した人は 97.5%となっています。 ・利用頻度は多くの施設が「過去数回」以下という回答であり、継続的な利用をされておらず、「月 1 回」以上という回答は、図書館および市役所本庁舎以外ではほとんどありません。 ・利用したことがある施設で最も多いのは図書館の 90 件(55.2%)、次いで市民会館の 55 件(33.7%)、市役所本庁舎の 25 件(15.3%)となっています。 ・利用してみたい施設で最も多いのは図書館 42 件(26.9%)、次いでスポーツ施設の 14 件(9.0%)、博物館の 11 件(7.1%)となっています。
自宅・職場・学校以外での過ごし方	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅・職場・学校以外で過ごしている場所を「市内」と回答した人は 49.1%、「市外」と回答した人は 41.1%、「特になし」は 18.4%となっています(複数回答あり)。 ・市内で過ごしている場所の内訳は、イオンモールが最も多く 24 件(34.8%)、次いで図書館が 7 件(10.1%)、ショッピングモールが 6 件(8.7%)と商業施設が4割以上を占めています。過ごし方の内訳は、買い物最も多い 17 件(29.3%)、次いで勉強が 12 件(20.7%)、映画が 7 件(12.1%)となっています。 ・市外で過ごしている場所の内訳は、つくば市が最も多い 10 件(18.9%)、次いでイオンモールが 7 件(13.2%)、カフェが 5 件(9.4%)となっています。過ごし方の内訳は、買い物が最も多い 17 件(37.0%)、次いでスポーツが 5 件(10.9%)、映画、食事がともに 4 件(8.7%)となっています。

3. 類型別方向性の検討に向けて

公共施設は、条例等に定める設置目的に基づき整備されていることから、各施設の対象世代や所属等は施設毎に異なっております。利用者アンケートの結果においても、全体的な傾向として、

- ・週1回以上利用しているなどリピーターが多い
- ・利用している世代が特定の世代に集中している

など、各施設の設置目的に応じた対象者により、継続的な利用がされていることが伺えます。

また、将来世代のアンケート結果から、

- ・「自宅・職場・学校以外での過ごし方」として、「勉強」や「スポーツ」など、公共施設のサービス内容と重複する内容が一定数ある。また、利用してみたい施設は、「図書館」や「スポーツ施設」という意見が多い。
- ・月1回以上、定期的にご利用している施設は、図書館や市役所本庁舎がほとんどである。
- ・自由意見欄では、「いつでも気軽に借りられる施設があるといいと思います」「若い人向けの施設が少ないと思う」という意見が複数見られる。

など、将来世代の公共施設の利用は現時点では限定的ではあるものの、公共施設に対するニーズは一定程度あることが伺えます。

これらのアンケート結果を受け、今後、公共施設の総量を縮減する中で、これまでの利用者の利便性は確保しつつ、将来世代など利用してこなかった方にも、使いやすく、魅力あるサービスを提供するための公共施設のあり方について検討する必要があると考えます。

昨年度策定した「土浦市公共施設等再編・再配置計画」では、総量縮減の手法の1つとして、集約・複合化による施設の最適配置について掲げておりますが、その中で、集約・複合化の検討における「3つの視点」と「4つのサービス向上効果」を挙げ、施設総量を圧縮しつつ、既存サービス向上や新たなサービス創出を図る、としています。

集約・複合化の検討における3つの視点

- | |
|---|
| ① ワンストップ…複数の場所へ移動する必要がなくなり、利便性が向上する組み合わせ
例：公民館×図書館×支所×児童館 |
| ② 相乗効果…相互の機能に好影響を与えるなど、サービスが向上する組み合わせ
例：公民館×児童館×老人福祉センター |
| ③ 施設共有…1つの場所を複数の施設による相互利用を行うことや、同種施設の集約化を行うことで、施設の稼働率向上を図る組み合わせ
例：小学校×児童クラブ×生涯学習施設 |

集約・複合化によるサービスの向上効果

- | |
|---|
| ① 質の向上：施設の多機能化や共有スペースの活用等により、イベントなど提供サービスの規模拡大や内容充実を図ることができる。 |
| ② にぎわい・活性化：異なる利用目的の利用者が1つの施設に集まることで、にぎわいが創出される。 |
| ③ 多世代交流：各世代の交流拠点として、地域で活動する組織や団体等の連携・交流が生まれる。 |
| ④ 新サービスの創出：施設間の共催・連携事業の実施など、今までに無かったサービス提供が可能になる。 |

以上のことから、今後、類型別の方向性(素案)を策定する中で、総量縮減とサービス向上の両立により目指すべき将来像を示す必要があると考え、以下のとおり「公共施設のあるべき姿(案)」を作成しました。

類型毎の現状と課題に対し、将来のあるべき姿を見据えた上で、どのように対応していきべきか検討していきます。

公共施設のあるべき姿(案)

～誰もが、気軽に、使いやすい、みんなが集まる、使いたくなる施設～

- | | |
|----------|----------------------------------|
| ・誰もが | … 今まで利用していた人も、利用していなかった人も |
| ・気軽に | … 利用条件が限られていない、開かれている、手続きが簡単 など |
| ・使いやすい | … 施設性能・安全性向上、多目的利用が可能 など |
| ・みんなが集まる | … 施設の複合化・多機能化、利用者の交流による活動の広がり など |
| ・使いたくなる | … 時代やニーズの変化への対応、新たな機能 など |

I 類型別方向性の検討(サービス・機能)

行政が提供すべきサービスについて、土浦市のあるべき姿を見据えながら、社会経済情勢の変化等を考慮し、時代に見合った量・質の適正化を図る。

○検討における3つの視点

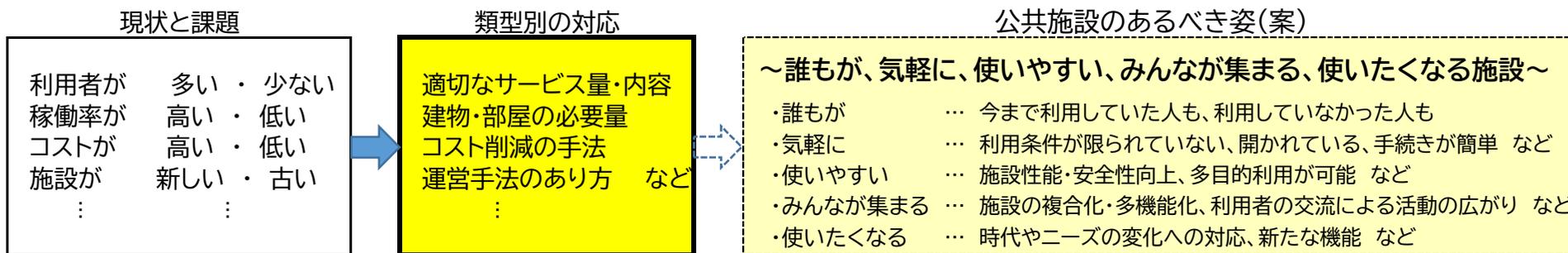
- ・必要性…設置目的、法令等による義務、生命・生活に直結、政策的判断 等
- ・妥当性…利用状況・コスト・施設機能 等
- ・代替性…類似機能の提供状況、運営主体見直し 等

◎検討フロー

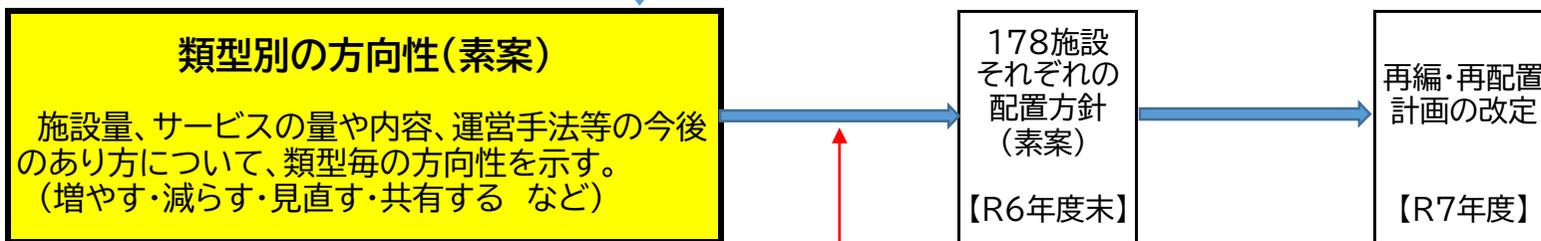
(1)対象178施設のサービス内容を23の類型に分類し、上記3つの視点を踏まえ、以下の5項目による施設評価を実施。【令和5年度上半期に実施】

- ①施設概要 … 設置目的や提供しているサービス内容等
- ②利用状況の妥当性 … 利用者数、稼働率(類型内比較、時間別・部屋別の状況等)
- ③コストの妥当性 … 受益者負担割合や費用対効果など、類型内・他類型との比較
- ④機能や運営の代替性 … 民間等のサービス提供状況、運営手法の妥当性等
- ⑤建物の機能の妥当性 … 築年数、改修・修繕履歴、劣化状況等

(2)施設評価で明らかになった類型別の現状と課題に対し、将来のあるべき姿を見据え、どう対応していくべきか検討する。【第1回策定委員会】



(3)類型別の方向性(素案)としてまとめる。【第2回策定委員会】



(4)市民に公表の上、意見を集約。【市民アンケート、市民説明会】